

CASBEE-建築(新築)2016年版
クレヴィア長岡天神

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質			0.40			3.3
1 音環境		4.0	0.15	3.6	1.00	3.6
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		5.0	0.50	4.2	0.50	
1 開口部遮音性能	全ての建具にてT-2を採用	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	—	—	—	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	フローリングLL-45	—	—	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	フローリングLL-45	—	—	5.0	0.20	
1.3 吸音	—	—	—	—	—	
2 温熱環境		2.6	0.35	3.3	1.00	3.2
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.7	0.50	
1 室温	—	3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能	専有部:「5-1断熱等性能等級」が等級4を超える水準を満たす	3.0	0.38	5.0	0.38	
3 ソーン別制御性	—	—	—	—	—	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	4.0	1.00	3.9
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.6	0.40	
1 屋光率	共用部:3.07%、専有部:3.27%	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	全方位に窓の計画	—	—	5.0	0.30	
3 屋光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.40	
1 屋光制御	各住戸にCBおよび庇あり	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	—	3.0	0.15	3.0	0.20	
3.4 照明制御	—	3.0	0.25	—	—	
4 空気環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率0.212%	—	—	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		—	—	—	—	
1 CO ₂ の監視	—	—	—	—	—	
2 喫煙の制御	—	—	—	—	—	
Q2 サービス性能			0.30			3.4
1 機能性		3.1	0.40	4.2	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	—	—	—	—	—	
2 高度情報通信設備対応	インターネット環境が整備されている	—	—	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画	—	3.0	1.00	—	—	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観	—	—	—	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	—	—	—	—	—	
3 内装計画	—	3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	—	—	
1 維持管理に配慮した設計	評価する取り組みの合計が7	4.0	0.50	—	—	
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	—	—	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	—	—	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	—	—	
1 躯体材料の耐用年数	劣化対策 等級3相当	5.0	0.20	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	主要な居室の壁・天井にビニルクロスを採用	4.0	0.10	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給排水管にて2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	2.0	0.20	—	—	
2.4 信頼性		3.0	0.20	—	—	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20	—	—	
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20	—	—	

3	対応性・更新性		3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり						
	1 階高のゆとり	-		-	2.6	0.50	
	2 空間の形状・自由さ	-		-	3.0	0.60	
	3.2 荷重のゆとり	-		-	2.0	0.40	
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	3.0	0.50	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)			0.30			2.8
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮	-	2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.9
LR1	エネルギー			0.40			4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	専有部:「5-1断熱等性能等級」が等級4を超える水準を満たす	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.62、性能基準にて全住戸ZEH Oriented取得	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価						
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.5	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	エネファームリモコン	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル			0.30			3.6
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	節水コマ、節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.7	0.60	-	-	3.7
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	押出法ポリスチレンフォーム、ビニル床シート、ビニル床タイル	5.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上及び配管が分かれている	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	次付硬質ウレタンフォーム ODP:0、GWP:1	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境			0.30			3.5
1	地球温暖化への配慮	LCCO2:61%	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	敷地内に十分な駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

クレヴィア長岡天神

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0			○	○	-	-	○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	-	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0		-	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	2.0	2.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	-	3.0	-	-	2.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.45 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 2.88 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 56.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/㎡
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 34% 建物緑化指数 48%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 20% 水平投影面積率 35% 地表面対策面積率 46% 舗装面積率 21%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 等級4を超える 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0% 通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 5.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 44% 隣接間隔指標Rw 0.40 地表面対策面積率 93.0% 屋根面対策面積率 16.0% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 200 m 基準高さH _b 450 m 緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 300㎡